

第1回委員会

日時：2003年4月26日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長，白石，平田，古川，増井，茂出木，横山，和中

欠席：原井

<事務局>磯部

[配付資料]

- 1．和漢古書を含む第2章案(32ページ- A4，増井委員)
- 2．和漢古書を含む第3章案(13ページ- A4，増井委員)

[報告事項]

1．新委員について

茂出木理子氏（国立情報学研究所）と平田義郎氏（横浜国立大学附属図書館）が、それぞれ木村委員、室橋委員の後任として委員に就任し、今期から委員会に参加することになった。

[検討事項]

1．和漢古書について

1-1 第2章について

増井委員が資料1について説明し、検討を行った。

(1) 2.5.1.2A

和漢古書については「鋪」とするが、それ以外のものは「枚」に戻した。理由は「枚」が一般的になっているため。

(2) 2.4.1.2A

地名はあるがままを記述して、必要があれば出版時の都市名、国名を補記する。別称の場合には一般に通用しているものを補記するとした。例を本文の順序にした。

・出版地は原則として都市名を採ることになっているが、それより狭い場合や広い場合はどうするか。

・AACRでは表記されているものを転記して、階層的なものがあつたら識別のために後ろに付けるとしている。NCRでは出版地に市町村名を書きたいがためにこうなっている。

・洛陽〔京都〕は、京都でよいのか京がよいのか確認する必要がある。

・2.4.1.2、2.4.1.2A、2.4.1.2Bは、日本と外国、時代、資料の切り分けが必要で、以下のよう直す。

2.4.1.2 出版地は表示されてままとる。

2.4.1.2A 日本... 和漢古書は...

2.4.1.2B 外国...

古地名はあえて書かない。

・日本の場合、近現代は出版地は市町村名を書く、和漢古書は表記のあるまま書いて、出版時の都市名を補記する。

・2.4.1.1に地名の定義がある。寺町や日本橋は地名と理解しないほうがいい。

(3) 2.1.1.1A

八家四六文註 8巻補1巻(存7巻)では、8巻補1巻までは統一タイトル的に扱っているので、タイトルの位置に書くことはよいが、(存7巻)はどうか。

・不完全本の意味を示すものとしてあってもよいが、一方それならある巻数を書いたほうがいいという考え方も成り立つ。

・NIIでは最初の段階で欠が見える形にすることを考えたが、そのほうが利用者にはわかりやすいともいえる。

・NIIでは、宮澤教授は1書誌1所蔵とする、書誌的巻数をタイトルに続けて書く、従って存も書誌的巻数に伴うものとして表側に出てくる、という説明をしていた。

・和漢古書では欠本は重要な情報だが、規則としてここに書くのはおかしい。

簡単に結論が出ないので継続して検討する。

・情報オブジェクトで、タイトルと粒度を規定する部分をどうするか。電子資料やマイクロ資料の場合、本のようにハンドリングしやすいといった単位ではなく、ウェブページのような論理的な粒度がでてくる。和漢古書の存の議論とは直接重ならないが、ちょっと関連するところがある。

(4) 2.0.6.5

・ヘマムシの例は、補記になっていないので、何を示す例なのかわからず中途半端である。

・ここに再現不能の例として元々あったのは神代文字の例であるが、資料には和漢書のための追加分しか入れていないので、今回は入っていない。

(5) その他

・「識語」など用語解説に加えるべきものがあるので、第9章の改訂時のように本文の改訂と並行して用語解説を増やす。注記の箇所にはそのような言葉がたくさん出てくる。春日版、伏見版、匡廓、界線、など。書誌学辞典や図書館情報学会の用語辞典を参考にする。

・パラグラフがかわる場合、1字下げになっていないところがあるので直す。

・和漢古書の部分については、和漢古書を扱っている人の感覚で入れているので、目録規則として適切なのか検討してほしい。

・書誌という言葉の使い方に注意。NCRでは書誌的記録、NIIで正確にいう場合は書誌レコード。

1-2 第3章について

増井委員が資料2について説明し、検討を行った。

・現行で第1章へ参照している部分に入れ込みたいものがある時どうするか。第2章への参照でもいいかもしれないが、写本向けに直して入れられるところに入れ込んだ。用例は適切でないものがそのまま入っていたりするので、徐々に直す。

(1) 3.4.2.2B

今までNCRでは書写者は記録しない、任意規定で転写者のみ記録するということがあった。

NIIですべて入れることになったので、それを受けて全部書くことにした。

「写」と「自筆」を区別した。それがわからない場合は入れないとしたため、写本であることがわからないことがある。NIIの場合写本には必ず注記を入れる。

・「自筆」と書く必要はない。著者と同じであれば自筆であることはわかる。NIIの規定が目録規則からはずれ始めたのではないか。NIIが「自筆」とした経緯を確認して、どうするか検討する。

(2) 3.1.2

「1.1.2を見よ。」となっているが、すべてが書写資料でない場合以外は、資料種別は入れた方がいい。

2. 今後について

・第2章、第3章における和漢古書の部分の修正については「追加および関連修正」(amendment) という形で公表して、意見をフィードバックして完成させる。なお、第13章のほうは「改訂」(revision)。

・第 部の検討を始めたい。そのための資料として、AACR2日本語版第 部を電子化し更新する作業を行う。

・MODSがやっているような、書誌データをマークアップ言語でどう書くか、書誌要素をシンタックス・フリーで考えてみる必要がある。

次回 5月31日(土)

次々回 6月28日(土)

次々々回 7月19日(土)